

## GSID ディスカッション・ペーパー執筆・投稿規程

図書・紀要編集委員会  
(2004年7月21日作成)  
(2007年2月28日改正)  
(2021年4月7日改正)

国際開発研究科(GSID)の研究成果の発表と普及のため、GSID ディスカッション・ペーパーを発行する。

- (1) 本規定は図書・紀要編集委員会により運用され、必要に応じて修正される。
- (2) ディスカッション・ペーパーは名古屋大学学術機関リポジトリで公開される。また、「名古屋大学学術機関リポジトリ登録」を原則とし、執筆者がこれを望まない場合はその旨を図書・紀要編集委員に申し出る。
- (3) 以下の者は、(4)の規定にしたがって、図書・紀要編集委員会にディスカッション・ペーパーの発行を申し込むことができる。
  - (ア)GSID 教員。
  - (イ)GSID 客員研究員。

客員研究員がその成果をディスカッション・ペーパーで公表する場合には、受入期間終了後6ヶ月以内に原稿を図書・紀要編集委員会宛に、(4)の規定にしたがい提出しなければならない。
  - (ウ)研究科が受け入れた日本学術振興会及びその他の研究員。

研究科受入教員は、冒頭で研究員と当研究科との関係等について言及する。
- (4) 申請者は、以下の様式に従い、図書・紀要編集委員会にファイルを提出する。
  - (ア)フォーマット
    - ① MS-Word形式又はテキスト形式での提出とする。
    - ② 1ページの行数：縦40行(日本語)。日本語以外は、縦32行。
    - ③ 文字の大きさ：10.5ポイント。文字の種類については、特に指定はしないが、日本語の場合は明朝体ないしゴシック、英語の場合はTimes New RomanないしCenturyが望ましい。なお、それ以外の言語についても標準的な文字種を使用すること。
    - ④ 余白：上下左右20mm。
    - ⑤ ページ番号：ページ下部中央に、本文1ページ目から付ける。
    - ⑥ 注記については、脚注、文末注が選択できる。
    - ⑦ 引用・参考文献文の表記方法については執筆者の使い慣れたスタイルが良い。
    - ⑧ 表紙については出版担当助教が作成する。但し、通し番号、執筆者の氏名と所属、謝辞については執筆者が作成する。
  - (イ)全体の長さ(日本語の場合、日本語以外の場合共に)

図表、注、文献すべてを含め、60ページまで。  
この長さを超過する場合には、事前に出版担当助教に問い合わせること。
  - (ウ)提出された原稿は完成原稿とし、校正は行わない。
- (5) ハードでの印刷物を希望する場合は、執筆者は、自己の責任・負担で成果物の製作、発送および管理を行うものとする。但し、フォーマットについては、(4)に掲げる図書・紀要編集委員会が指定する形式に従う。